

## 事業群評価調書(平成28年度実施)

基本戦略名	5 次代を担う子どもを育む	事業群主管所属	事業群①④:義務教育課
施策名	(4) 我が国と郷土を愛する心や豊かな人間性、社会性の育成	課(室)長名	事業群①④:木村 国広
事業群名	① ふるさとを愛し、我が国と郷土長崎に誇りを持つ子どもの育成	事業群関係課(室)	生涯学習課
事業群名	④ 子どもたちが直接自然と触れ合う体験活動や農山漁村での交流体験の推進		

### 1. 計画等概要

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)】

##### 《長崎県総合計画チャレンジ2020 本文》

- ①我が国と郷土に誇りを持ち、明るく活力ある地域社会の実現を目指し、我が国と郷土の歴史や伝統文化についての理解を深め、次の世代へ確実に継承しようとする態度を育みます。また、本県の特徴である「しま」の特性を活かした体験活動を通じてふるさと長崎県の再認識を図る取組を推進します。
- ④子どもたちの豊かな人間性や社会性を養うため、自然と直接触れ合う体験をはじめ、農林漁業体験、異年齢の子どもや地域の人々との交流など学校内外の体験活動の機会を充実させるとともに社会的課題に対応した体験活動を推進します。

	最終目標 (H32)	基準値 (H26)	実績 (H27)	達成率	【進捗状況の分析】
①郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)	100%維持	79.6%	81.1%	—	①「郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合」は、わずかずつではあるが、年々増加している。社会科や総合的な学習の時間をはじめとする様々な学習場面において、郷土長崎の良さに目を向けさせる指導が着実に展開されているものとする。④各小・中学校において児童生徒や地域の実態に応じた内容で、自然体験活動が展開されている。その実施形態も、学校全体であったり、学年・学級規模であったり、様々である。
④自然体験活動に取り組んでいる小・中学校の割合	100%	79.3%	80.6%	—	
事業群の進捗状況					—

#### 【事業群取組内容(総合計画に掲げる取組)の分析】

##### 《取組項目及び現状と課題》

- i) 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進(事業群①)
- ・郷土学習資料「ふるさと長崎県」を毎年度作成し、県内の公立中学校1年生及び特別支援学校中学部1年生に配付している。
  - ・全ての学校において、社会科の時間や総合的な学習の時間において活用されており、郷土学習の充実に資するものになっている。
  - ・長崎県における今日的な課題を掲載していく必要があるため、関係機関との連携を一層充実させていく必要がある。
- ii) 我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実(事業群①)
- ・県内の小・中学校の内、約半数の学校が、総合的な学習の時間等において、「伝統芸能」等に取り組んでおり、ペーロンや神楽、太鼓演奏等、地域の実態に応じた様々な取組が展開されている。
  - ・教育課程の中で、郷土の伝統・文化に関して学び時間を生み出すのは、各学校の創意工夫に任されたところであり、全ての小・中学校において充実した取組が展開される環境とはいえない現状がある。
- iii) 「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進(事業群①④)
- ・「しま」の自然・歴史・文化を体験させる機会を児童生徒に提供し、ふるさとを学ぶ教育を推進するために「しま」体験活動支援事業を展開しており、平成27年度は、本土部の児童生徒597人が離島部において体験活動を行うことができた。
  - ・平成17～27年度までの10か年で、約9,000名の児童生徒が「しま」への修学旅行を体験しており、児童生徒への事後アンケートでは、97パーセント以上の児童生徒が体験を楽しく感じ、自然や文化について理解できたと答えていることから、充実した活動が展開できていると判断する。
  - ・「しま」への修学旅行は、天候に左右されやすく、延期や旅程変更を余儀なくされるという側面がある。また、近年の貸切バス等値上げにより、金銭的な面でも実施が厳しくなっている。
  - ・「しまの魅力に出会う日本の宝「しま」交流支援事業」のH27年度の参加者は、子どもコース169人、親子コース81人で、参加者の事後アンケート結果では、本事業に対する高い満足度が得られ、「しま」や本県の良さを再認識するなど、有意義な体験活動や交流活動となっている。

## 2. 27年度取組実績

取組項目	事務事業名 所管課(室)名	事業期間	事業費(上段:実績、下段:計画、単位:千円)			事業概要		指標(上段:活動指標、下段:成果指標)					中核事業	
			H27実績	一般財源	人件費(参考)	事業対象	事業内容 (事業の実施状況)	指標	主な目標	H27目標	H27実績	達成率		事業の成果等
			H28計画	一般財源	人件費(参考)					H28目標	—			
取組項目 i	郷土学習資料作成事業	H15-	2,901	2,901	2,417	公立中学校1年生及び特別支援学校 中学部1年生	平成28年度版「ふるさと長崎県」を、15350部作成し、県内各学校や関係機関に発送した。 27年度版からの主な改訂内容は、公民的分野における「若年層の政治参加」や「五島市の福祉政策」等である。	活動指標	作成配付部数(冊)	15,300	15,350	100%	具体的な活用として、社会科地理的分野の「身近な地域」の野外学習を行う際に携帯したり、歴史的分野で「郷土のおもな偉人」等を参考に各時代の様子を学ぶ教材として使用されている。総合的な学習の時間においても有効な学習資料となっている。	○
	義務教育課		3,110	3,110	2,420			成果指標	郷土長崎への理解と愛情のある児童生徒の割合(小・中学校)(%)	85	81.1	95%		
取組項目 iii	「しま」体験活動支援事業費	H23-	494	494	1,611	公立小・中学校	平成27年度は、長崎市、大村市、波佐見町の小・中学校や県立中学校の児童生徒597人が本事業により体験活動を実施した。活動先は、壱岐市、五島市の2市である。また、しまの魅力を広く伝えるため、実施校から聞き取った活動内容をまとめ、他の各学校に情報提供を行った。	活動指標	各市町教育委員会に対する説明(回数)	—	1	—	長崎県に生まれながら、「しま」を知らずに県外へ進学・就職していく子どもも多い。参加した597人に本県の特徴である「しま」のよさに触れさせたことは、非常に有意義であると考えられる。	○
	義務教育課		387	387	1,613			成果指標	島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	—	97.9	97%		
	しまの魅力に出会う日本の宝「しま」交流支援事業	H27-	4,701	4,701	7,250	小学4年～中学3年の児童生徒及びその保護者	県内の子ども、親子を対象に、市町における実行委員会が主体となり実施する「しま」のよさを活かした体験活動を実施することで、参加者同士や「しま」の人々との交流を深めながら、本県の特徴である島地域の自然・歴史・暮らしなどについての理解及びふるさと長崎県の再認識を図った。また、すべての子どもたちに体験の機会を提供できるよう、就学支援世帯の参加者に対して参加費の補助を行った。	活動指標	子ども・親子コースの参加者合計256人を維持する(人)	256	250	98%	実施市町に対し、補助対象経費の2分の1を補助すると共に、企画段階から積極的にかかわることで、本事業の初期の目的を十分達成できた。また、参加者数の1割程度の就学支援世帯に対し、参加費の全額補助を実施したことで、すべての子どもたちに「しま」での体験の機会を提供することに寄与した。	○
			生涯学習課	5,252	5,252			7,259	成果指標	この島をもう一度訪れたいと思った参加者(%)	80	95.9		

## 3. 検証及び問題点の抽出

### 【課題解決に向けて取り組んだ事務事業の実績の検証】

i) 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育については、郷土学習資料「ふるさと長崎県」が効果的に活用され、生徒の理解促進につながっていると考える。今後、郷土長崎に対する理解と愛情を持つ子どもの割合をさらに増やすためには、社会科担当教員等への研修を充実させ、指導力向上を図る必要がある。

ii) 我が国や郷土の伝統・文化に関する学習については、学習指導要領でも求められているところであり、グローバル化が進むこれからの世の中であるからこそ、その基盤となる資質を養うものである。総合的な学習の時間に取扱う伝統芸能のみならず、様々な教科等の中で横断的・総合的に展開する必要がある。各学校において、年間指導計画の配列等を工夫させるための指導を展開していく必要がある。

iii) 郷土長崎で育つ子どもたちが「しま」の良さを活かした体験活動や地域の人々との交流を行う意義は大変大きい。しかしながら、近年の貸切バス等の値上げにより保護者の経費負担が増加し、参加児童生徒数が減少している。今後、活動の意義や具体的な実施方法の周知を丁寧に行うことで、参加児童生徒数を増やしていきたい。一方、各学校の教育活動の中に、自然体験活動が組み込まれていない学校も3分の1程度あることから、自然体験のもたらす効果等について各学校に啓発し、地域の実態に応じた自然体験活動等の実施を促していく必要がある。  
・H27年度から実施している就学支援世帯の参加者に対する補助制度へのニーズは高い。今後も事業の広域性や公平性を担保しつつ、補助制度の継続は必要である。一方、本事業では本土の子どもが離島での体験活動を行うものであり、今後、離島の子どもが体験や交流する機会の提供についても検討していく必要がある。



#### 4. 29年度実施に向けた方向性

【問題点解決に向けた方向性】	【個別事務事業の見直し】			
	事務事業名	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
<p>i) 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育の推進 教科や総合的な学習の時間等における郷土を理解する教育が各学校で展開されるに当たり、郷土学習資料「ふるさと長崎県」は一定の効果をもたらしており、今後も内容の充実や効果的な活用の啓発に努めていく。 また、子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、社会科担当教員等の研修会について、内容の充実を図っていく。</p>	郷土学習資料作成事業	①	<p>平成28年度においては、子どもたちの郷土長崎に対する理解と愛情を深めるため、本学習資料の作成・配布し、内容の充実を図っていく。 平成29年度においても、引き続き内容の充実を図りながら、本学習資料の継続的な活用を行い、子どもたちの郷土長崎に対する愛情を深めていく。</p>	改善
<p>ii) 我が国や郷土の伝統・文化に関する学習の充実 伝統・文化に関する教育を充実させるために、郷土学習資料の活用啓発を図るほか、教職員に対して、教育課程説明会等を通して、担当教科の果たすべき役割等を捉えなおすことができるよう指導していく。</p>	「しま」体験活動支援事業費	-	<p>本事業は平成23年度から展開されており、平成27年度までに4000人以上の児童生徒が、しま部での体験活動を行った。参加した児童生徒の多くが、日常生活では味わえない体験に感動を覚え、「しま」の良さを感じている。 平成28年度においては、参加児童生徒数を増やすため、市町と協力し活動の意義や具体的な実施方法の周知をさらに丁寧に行っていく。 平成29年度においても、市町と協力しながら実施校を増やしていく。</p>	現状維持
<p>iii) 「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流など学校内外での体験活動を通じたふるさと長崎県の再認識の促進 ・「しま」のよさを活かした体験活動や地域の人々との交流を図るために、「しま」体験活動支援事業の果たす意義は大きい。多くの学校が本事業の実施校の取組や実施するための工夫を知り、実施を検討できるよう文書等による周知の徹底を図る。  ・本県の特徴である「しま」ならではの自然や歴史などを活用した体験活動を通じて、本県への愛着を深め、効果の高い事業展開を行っていく。さらに、本土部・半島部の交流人口の拡大についても検討する。</p>	しまの魅力に会う日本の宝「しま」交流支援事業	②	<p>平成28年度も引き続き参加者数の1割程度の就学支援世帯に対し、参加費の全額補助を実施した。また、新たな取組として、地元高校生ボランティアに参加してもらい、地元高校生や大学生ボランティアと子どもたちとの交流が深まった。本事業は、ふるさと長崎のよさを再認識するとともに、参加者相互や地元の人との交流も深められ、参加者の満足度も高い。今後も、本県の特徴である「しま」のよさをより多くの児童生徒に体感させるため、本事業の継続を図ると共に、離島の子どもと本土の子どもたちとの交流を含めた体験プログラムの見直しや、高校生ボランティアの本格的な実施についても検討していく。</p>	改善